Ｃ－１　指導案

１年２組国語科学習指導案

日時　１０月８日（水）第６校時
場所　１年２組教室（３階）

１．単元名　古典に親しもう

２．小単元　「枕草子」清少納言

２．題材目標
（１）平安時代の生活や清少納言について知り,古典に興味を持とうとする。（国語に関する関心・意欲・態度）
（２）筆者の季節に対する感じ方やものの見方をおおまかにとらえることができる。（読むこと）
（３）歴史的仮名遣いや古文特有の語について理解できる。（言語事項）

３．指導にあたって
（１）教材観
本格的な古典の原文に出会う第１学年の学習は,極めて重要である。古典を学習することによって,時間を超えて日本人に共通するものの見方・考え方・感じ方を知ることになる。それはつまり,古典に親しむあるいは我が国の文化や伝統について関心を深め,理解することにつながる。
中学生になり,初めて古典学習に入ったのだが,「竹取物語」で古人の願いや夢・空想力を知り,現代の人々と変わらぬ共通の考えを持っている事実に気づいたであろう。その気づきをもとに,色彩豊かで言葉も美しく,優れた表現が随所にある「枕草子」では,人々の生活の様子を想像し,日常的な思いを理解することができるであろう。一人の女性の美意識・感受性を生むもととなった生活へ思いをいたらせ,いろいろな疑問から想像を広げ,当時の生活に関心を持つことと思う。また,古典独特のリズムを持った文章は,読んでいて快く古典のリズムを読み味わうには何よりの作品である。

（２）生徒観
古典の学習について,小学校でいくつかの作品の原文を暗唱した経験がある生徒は２０％程度であるが,初めての世界に触れることに知的好奇心をくすぐられる面もあり,古典を学習することに興味を持っているようである。歴史的仮名遣いなど難しいと考えている生徒もいるが,音読することに大変意欲的で,古文の持つ独特のリズムを楽しんでいる。また,現段階では内容について分からなくても作品名や筆者名など耳にしているので,関心も高いようだ。音読など大きな声を出すことに抵抗感はないが,自分の意見を発表することは,恥ずかしいと感じているところが見受けられる。今回は小グループで発表し,その後全体で交流することで,自信もつき,抵抗感も少し和らぐのではないかと考える。

（３）指導観
古文の原文を読むということは,新しい体験である。今後,本格的に古典学習をしていく前の入門期に,苦手意識を持たせず,古典に親しむ態度を育てていきたい。「枕草子」では,繰り返し音読・朗読することで古文の持つ独特のリズムに慣れさせるために,教師と生徒と交互に音読する,ペアで交互に一文読みをする,古文とそれに対応した口語訳部分を交互に読むなど,交互読みでもまるで一人で読んでいるかのようにスムーズに読むことを目指す。いろいろなパターンで優れた表現を読み味わわせたい。そして,そこに見られる古人のものの見方や考え方を読み取りながら,日本人のもつ季節感を感じ,自らの季節感を改めて考えさせたい。そのため,「私の枕草子」を清少納言の感性の鋭さ（四季ごとに良さをとらえている。視覚の世界,聴覚の世界を組み合わせている。一幅の絵のようである。など）や清少納言の表現の特徴（一文が短い。体言止めの効果。逆説的表現。対比させた表現。など）を参考に書かせたい。その後,小グループで発表し,清少納言のどんな表現のしかたを参考にしたかを指摘し合い,相互評価しながら小グループの優れた作品を選び発表し,全体で交流することによって読みを広げさせたい。そしてまとめには,清少納言の季節感と現代の季節感の共通点,相違点を考えさせ,古典に親しませたい。

（４）研究テーマ

研究主題：「自ら考え,豊かに学び,よりよく生きる生徒の育成」

副題：「確かな学力の向上をめざして（活用力向上推進モデル事業）」

活用力を育むために,この題材ではⅠ,Ⅲの場面を取り入れた。日本人のもつ季節感を感じ,自らの季節感を改めて考えさせるために,「私の枕草子」を書かせた。手順として,自分の好きな季節から連想できるものをたくさんあげさせ,なぜ好きなのか短い文章にまとめた。次に,清少納言の感性や表現を参考にして書かせた。本時ではそれを小グループの中で発表し,清少納言のどんな表現を参考にしたかを指摘し合うことで相互評価する場を設定する。また,表現の工夫について小グループで交流し,それを全体で発表する。次時にまとめとして,清少納言の季節感と現代の季節感の共通点,相違点を考えさせることで,古典に親しませたい。

４．学習計画と題材の評価規準

次	時	主な学習活動	観点	評価規準	本単元で特に取り組みたい活用力向上のための取り組み
一	1	1・枕草子や清少納言についてあらましを知る。 2・表現に注意しながらくり返し音読する。	① ⑤	・作品に関心を持ち,意欲的に読もうとしている。 ・古文の語句や仮名遣いに注意しながら音読している。	
二	2	3・現代語訳を参考にしながら,古文の意味を理解する。 ・古文のリズムを感じながら,繰り返し音読の練習をする。	④	・筆者の季節に対する感じ方や物の見方をおおまかにとらえている。	
	3	4・「学習の課題」を確かめ,古文を読み味わう。 ・古文のリズムを感じながら,繰り返し朗読の練習をする。	④	・筆者の表現の特徴をとらえている。	
三	4	5・「私の枕草子」を書く。	④	・清少納言の表現を参考に,季節感を文章にまとめている。	清少納言の表現を参考に,自分が好きな季節について,自分の体験をもとに「私の枕草子」を書く。（Ⅰ）
	5	6・グループで「私の枕草子」を発表し,それぞれの作品を評価・批評し,全体で交流する。	④	・それぞれが書いた「私の枕草子」を相互評価する交流を通して,季節に対する感じ方を広めている。	小グループで「私の枕草子」を発表し,清少納言のどの表現を参考にしたかを指摘し合うことによって,いろいろな見方・感じ方があることに気づき,考えを広げる。（Ⅲ）
	6	7・清少納言の季節感と現代の私たちの季節感の共通点,相違点を比べる。	①	・清少納言の季節感と現代の季節感の共通点,相違点を考えることで,古典に対する親しみを持とうとしている。	

５．本時の学習（５／６）

（１）題材名　「枕草子」　清少納言

（２）目　標

・グループで「私の枕草子」を発表し,それぞれの作品を相互評価し,いろいろな見方・感じ方があることに気づき,考えを広げる。

（３）本時の評価規準

・それぞれが書いた「私の枕草子」を相互評価する交流を通して,季節に対する感じ方を広めている。

（④読むこと）

（４）活用力向上に向けての取り組み,工夫

・前時に,自分の好きな季節について清少納言の感性や表現を参考に「私の枕草子」を書いた。本時は,小グループで発表し,互いに清少納言の表現のどこ（聴覚をいかしている,対比した表現である,短い文である。など）を参考にしているかを指摘し合うことで相互評価し,それぞれが工夫してある点を話し合いによって交流する。そして,小グループの中で優れた作品を選び,それを全体に発表し,交流することによって自分の考えを広げる。（Ⅲ）

（５）準備

・実物投影機　　・話し合いの進行台本　　・自己評価カード

（６）学習活動と評価

段階	配時	学習内容・活動	評価場面・評価方法及び学校研究との関連	指導上の留意点（支援） ●留意点,◇集団への支援,◆個々への支援
導入	5	１.「枕草子」（第１段）を音読する。 ２．本時のめあてをつかむ。 ・グループで「私の枕草子」を発表し,それぞれが工夫したことを読み取り，交流する。		●「枕草子」（第１段）で読み取ったことを表現するように意識することを促す。 ◇評価の視点として,前時に学習した視点を示す。 ・一文が短い。 ・対比させた表現。 ・逆説的な表現 ・五感を生かしている。など
		発表します！「私の枕草子」 ―発見！！友達の季節感―		
展開	40	３．グループ（季節毎）で「私の枕草子」を発表する。発表者が季節感を表現するために清少納言のどんな表現のしかたを参考にしたかを指摘し合うことで相互評価する。	《活用力場面》 「私の枕草子」で清少納言のどの表現を使ったか，読み取る場面。	◇形態を３～４人班にし,発表者は立たせる。 ◆司会者には進行の仕方を示す。
		４．グループでそれぞれのよく工夫されたところについて意見交換する。	■評価観点④ それぞれが書いた「私の枕草子」を相互評価する交流を通して,季節に対する感じ方を広めている。（プリント）	◆司会者には話し合う事項について,例を示す。（意見・質問を交換するよう促す。） ・～さんの（　）の書き方が（　）だからよかった。 ・苦心したことは何か ・どこがおすすめか ◆工夫されたところを見つけられない生徒には清少納言の表現を参考にしたところに注目させる。
		５．各グループの「工夫大賞」を選び,「私の枕草子」と工夫について発表する。	《活用力場面》 「私の枕草子」に表現するために意図したこと,選ばれた根拠を説明する場面。	◇グループから二人発表者を出し,工夫大賞に選ばれた人が「私の枕草子」を発表し,一人が工夫点を解説する。 ◇実物投影機を使い，発表していることが全体にわかるようにする。 ◇発表後，感想や質問の時間をとる。
まとめ	5	６．自己評価する。 ・友達の季節感で発見したことを書く。		●机をもとの位置に戻す。。 ●指導者の評価を入れ，代表者以外の生徒も認める。